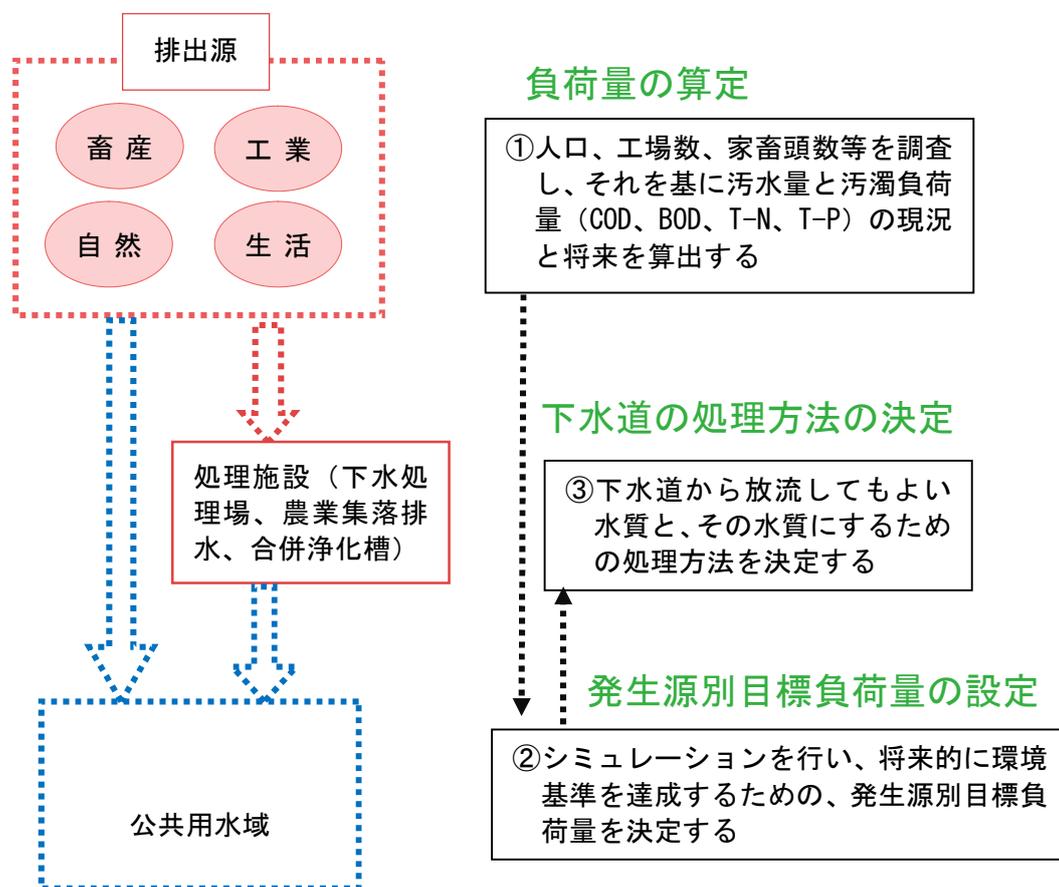


琵琶湖流域別下水道整備総合計画（流総計画）の見直しに関する検討状況の報告

■流総計画とは

水質環境基準を達成・維持するために必要な下水道整備に関する総合的な基本計画(下水道法第2条の2)です。

流総計画では、排出源を生活系、工業系、畜産系、自然系（山林等の面源排水）に分けて、人口や工場数、家畜数などを調査し、そのデータを元に公共用水域に流れ込む汚濁負荷量（COD、BOD、T-N、T-P）※を算出します。これらの算出結果を元に、公共用水域での汚濁負荷物質の濃度を、モデルを用いて予測し、水質環境基準を達成するための下水道の処理水質と処理方法を決定します。



流総計画の概略イメージ

※COD (Chemical oxygen demand: 化学的酸素要求量)

BOD (Biochemical oxygen demand: 生物化学的酸素要求量)

T-N (Total Nitrogen: 全窒素)、T-P (Total Phosphorus: 全リン)

■琵琶湖流総計画における計画期間

流総計画の計画期間は基準年度から概ね 30 年間を想定しております。当初～現在までの計画策定の経緯は下記の通りです。

区分	基準年度	目標年度	調査期間
当初	平成 2 年	平成 22 年	平成 3～11 年
現行計画	平成 16 年	平成 37 年	平成 17～19 年
見直し計画（今回）	平成 26 年	平成 57 年	平成 27～29 年(予定)

■琵琶湖流総計画における対象水域及び対象水質項目

下記に対象水域および対象水質項目を示します。

	対象水域	対象水質項目
湖沼	琵琶湖	COD、T-N、T-P
河川	琵琶湖流入河川 瀬田川 瀬田川流入河川（大戸川、信楽川）	BOD

■前回審議内容（平成 27 年第 2 回下水道審議会）

- ・現況の琵琶湖、河川の水質や、人口、汚水量等、収集したデータについて

業務内容	詳細内容
(1) フレームの設定	①現況人口の把握と将来人口の推定 ②工場出荷額、家畜頭数、観光客数、土地利用形態別面積の現況と将来推定
(2) 汚水量・汚濁負荷量原単位の設定	①生活、②工業、③畜産、④自然の排出源からの単位のあたりの汚水量と汚濁負荷量を調査
(3) 水環境の現況把握	琵琶湖及び河川における水環境の状況を整理

■今後の審議事項（予定）

- ・琵琶湖の環境基準達成に必要な目標負荷量と下水道の必要処理レベルの検討結果
- ・資源・エネルギー利用、省エネを考慮した施設配置計画（統廃合による検討等）